

2008年版

# 環境報告書



2009年 6月

日東精工株式会社

「私達は、環境にやさしい企業を築くため、

みんなで努力して行動します」

## 目次

ご挨拶	.....	2
会社概要	.....	3
環境方針	.....	5
環境管理体制	.....	6
環境目的目標	.....	7
環境目標実績	.....	8
環境活動	.....	9
環境コミュニケーション	.....	1 1
環境管理コスト	.....	1 2
環境品質保証	.....	1 3
省エネルギー活動	.....	1 4
水質汚濁物質	.....	1 5
廃棄物量・化学物質	.....	1 6



表紙: 塩岳山「楞嚴寺」  
(綾部市館町)

### 本報告書の対象範囲

1. 報告書の対象範囲は、本社工場、八田工場です。
2. 報告期間は、2008年1月1日～2008年12月31日です。
3. 報告対象は、環境分野です。

## ごあいさつ

金融危機に伴う、世界経済の低迷により、企業経営は非常に厳しい状況になっております。このような状況下においても益々地球環境問題への対応を迫られております。地球温暖化による海面上昇、異常気象、生態系への影響など過去に例を見ない現象が起こってきています。この現象はまだまだ大きくなり、さまざまな災害や弊害をもたらすことが懸念されます。

温暖化対策は全世界での取り組みも必要ですが、企業としても最大限温暖化対策へ取り組み、省エネルギー化、省資源化を進めなくてはなりません。

また、低炭素社会への取り組みや自然エネルギーへの転換を進めていかなくてはなりません。

弊社の温暖化対策は、二酸化炭素排出量を抑えるために、消費電力の削減、消費燃料の削減を進めております。また材料や化学物質の削減を図ることにより省資源化を図っています。

2008年は中期3ヵ年環境計画の最終年にあたり、目標達成に向けて様々な取り組みを進めてまいりました。二酸化炭素の排出量の削減と有害物質の全廃、廃棄物の削減とリサイクル化などに取り組んでまいりました。

また、城山工場と制御システム工場のISO14001の認証を取得することができました。全工場での環境管理システムの運用で、より効果的な環境対策が進められることとなりました。

2009年からは新たな3ヵ年計画で、温暖化対策に取り組んでまいります。

少ない資源で、少ないエネルギーで、高効率生産を進めていくことが、環境にやさしいモノづくりとなります。優れた品質、安全な製品、環境にやさしい製品をこれからも提供し続けるように努力してまいります。

2008年の環境報告を致します。

取組みや活動につきまして、ご意見をいただきましたら幸いです。

2009年6月22日



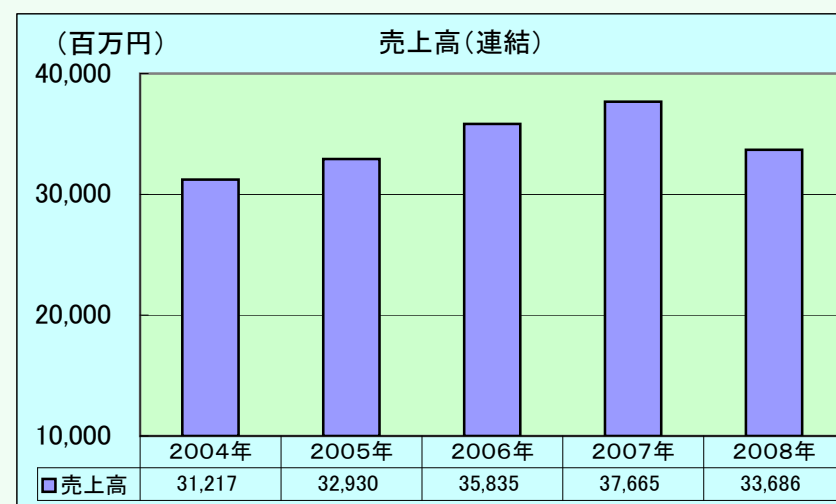
代表取締役社長  
塩田 展康

## 会社概要

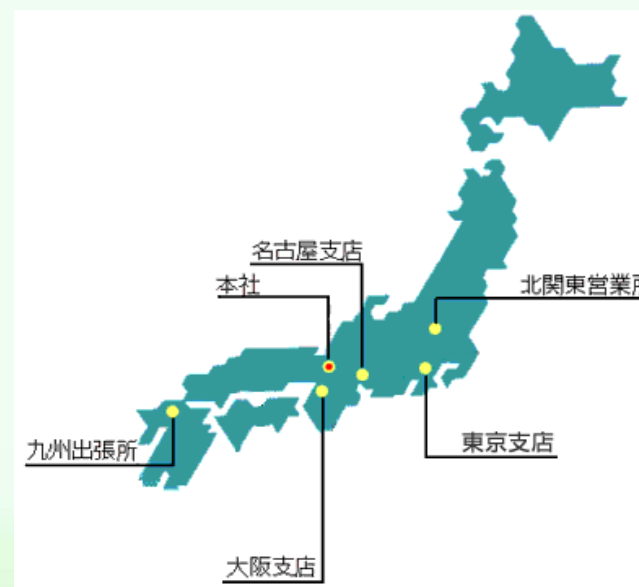
(平成20年12月31日現在)

社名	日東精工株式会社 NITTO SEIKO CO.,LTD
所在地	本社/623-0054京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20番地
代表者	取締役社長 塩田 展康
設立	1938年2月25日
資本金	3,522百万円
従業員数	719名
主要生産品目	ねじ類、特殊冷間圧造部品、ピン及びリベット 自動ねじ締め機、自動組立機、産業用ロボット、ドライバ 各種流量計、LPG充填装置、データロガー、地盤調査機、検査選別装置

## 売上高推移(連結)



## 国内拠点



## 製品情報

セルフタッピンねじ  
マルチタイト®



高硬度アルミ製タッピンねじ



サイレントフィーダ  
「FF1000HS」



位置確認機能付  
V型アームドライバ



新スウェーデン式サウンディング自動貫入試験機  
ジオカルテ® II JM\_model



振動検査装置  
キズミル

## 環境方針

### 環境基本方針

企業活動を展開する上において、環境保全を最重点とし、地域環境と地球環境を守り、社会と調和して豊かな社会の実現に貢献することを目的とします。

### 基本理念

地域社会と共存共栄を図り、環境に対しては先手を打ち、環境にやさしい、環境に負荷を与えない取組みを実践し、地域社会に信頼していただける会社を築いていきます。

### 行動指針

1. 法的要求事項及び関係するその他の要求事項を遵守し、汚染予防に努めます。
2. 省エネルギー、省資源に努めます。
3. 廃棄物の減量化とリサイクルの推進に努めます。
4. 地球環境に影響を与える物質の削減に努めます。
5. 商品・サービスの提供にあたっては、環境影響に十分配慮します。
6. 環境意識の向上を図り、全員で取組みます。
7. 地域との共栄を図り、地域への貢献と信頼を得るよう努めます。

### 社長コミットメント

当社は事業活動として、工業用ファスナー・自動組立機械・計測制御機器等の製造販売を行い、社会に貢献していきます。その事業活動を行うにあたり、環境保全への取組みを企業経営の最優先事項の一つと位置づけ

「私達は、環境にやさしい企業を築くため、

みんなで努力して行動します」

をスローガンに、経営層をはじめ全従業員が地域環境と地球環境を念頭におき、地球温暖化防止、環境負荷と環境リスクの低減に努めます。

1. 事業活動、製品について環境影響評価に基づき、環境管理活動を技術的・経済的に可能な範囲で、全員で取組み、環境目的および環境目標を設定、推進し、汚染の予防と継続的な改善・向上に努めます。
2. 環境保全に関する法令と、当社が同意したその他の要求事項を遵守します。
3. 地域との共生を図り地域への貢献と信頼を得るよう努力します。
4. 環境方針は掲示し、全従業員と組織で働く全ての人々に、環境カードを配布し周知徹底を図ります。

この環境方針は、社内外に公表します。

2009年 1月 1日

代表取締役社長 塩田 展康

## ISO14001 認証登録経過

2000年5月 本社工場・八田工場ISO14001:1996認証登録

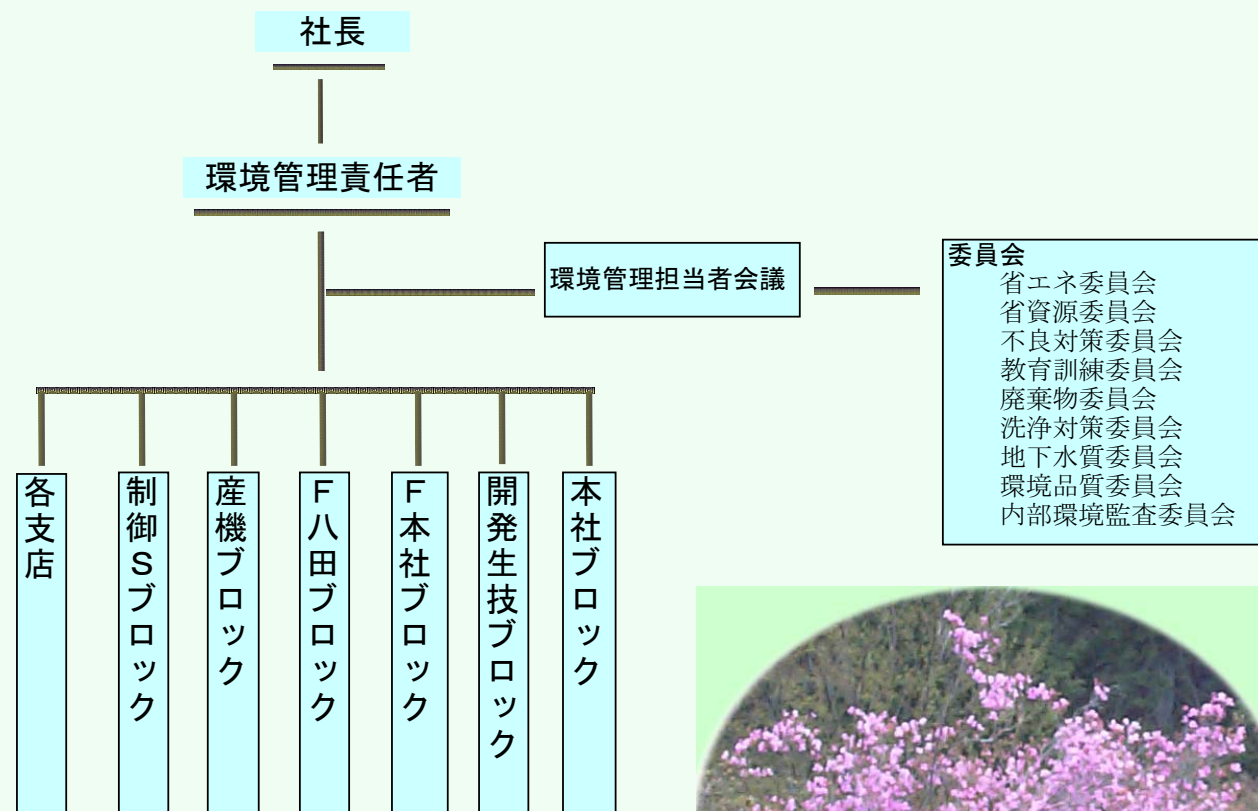
2005年5月 本社工場・八田工場ISO14001:2004移行登録

2008年7月 城山工場・制御システム工場ISO14001 認証登録

城山工場と制御システム工場の認証取得により、全ての工場において環境管理システムを推進する運びとなりました。

## 環境管理体制

社長以下環境管理責任者のもと、各部門において、環境管理活動を展開しています。また全社の委員会として、環境管理担当者会議、専門委員会として各推進委員会を設置し、目的目標の達成にむけた活動を行い、各部門で展開しています。



## 環境目的目標

日東精工 環境目的

2009年 1月 1日制定

日東精工株式会社の環境目的・目標を以下に定める。  
日東精工株式会社  
代表取締役社長 塩田 展康

環境目的の策定	
環境方針に基づき、2009年から3年間の環境目的を策定する	
環境目的	
1. 二酸化炭素排出量の削減 ・二酸化炭素排出量	<p>目標 2011年に2008年比3%削減する 二酸化炭素を267t削減する</p> <p>内訳 ① 電力消費量を67万Kwh削減する ② 灯油消費量を2.8K0削減する ③ LPG消費量を3.8t削減する ④ 廃棄物を92t削減する ⑤ 廃油廃アルカリを50%リサイクルする</p>
2. 環境リスクの低減 ・環境リスク要因の削除、改善を図る	<p>① 亜鉛排水濃度規制2mg/lを遵守する ② 地下汚染防止対策を推進する</p>
3. 環境にやさしい業務を推進する	<p>① 職場環境の整備と美化の推進 ② 3M（ムリ、ムダ、ムラ）及びクレームの排除を行う ③ 地域環境に配慮した生産活動を行う</p>
2009年 環境目標 環境目的に基づき 2009年の環境目標を定める	
1. 廃棄・終品不良率、クレーム（社内外）件数を前年度比30%削減する	<p>(1) 廃棄重量を30%以上削減する (2) 終品不良を30%以上削減する (3) クレーム件数（社内外）を30%削減する (4) 省エネ省資源を推進する</p>
2. 廃棄物のリサイクル化を進める	<p>(1) 廃油を再利用する (2) 廃アルカリを再利用する</p>
3. 環境リスクの低減	<p>(1) 亜鉛排水濃度2mg/l対策を実施する (2) 薬品、油などの漏洩防止、オイルパン設置、漏れ対策を実施する</p>
4. 環境にやさしい業務を推進する	<p>(1) 省エネ、省資源活動を徹底し、ムダをなくする (2) 工場の美化、不要物の撤去、廃棄物の削減と分別の徹底を図る (3) 3M（ムリ、ムダ、ムラ）及びクレームの排除を行う (4) 地域や住民に配慮した作業を行う</p>



## 環境目標と実績

環境目的	2008年環境目標	2008年活動実績
ISO14001 認証拡大	城山工場・制御システム工場の認証を取得する。	1. 拡大審査 2008年5月13日～16日 2. 審査合格 取得日 2008年7月4日付け
二酸化炭素排出量の削減	対前年比 91t削減する。 原単位目標を 0.580とする。	対前年比 217t 削減 原単位 0.596 生産量の低下により二酸化炭素排出量は減少したが、売上高の減少により原単位は増加となりました。
エネルギー使用量の削減	電力使用量を前年度比 43万kwh削減する。	対前年比 63万kwh 削減となりました。 生産量の低下によります。
	燃料使用量を前年度比 700kℓ削減する。	対前年比 10kℓ増加しました。 有機溶剤に代わりアルカリ洗浄を増加した結果燃料が増加となりました。
リサイクルの推進	リサイクル率を80%以上とする。	リサイクル率は68%にとどまりました。廃棄物からリサイクル材への利用を検討していましたが、実施できませんでした。
化学物質の削減	塩化メチレン、フロン141bを全廃する。	塩化メチレン、フロン141bを全廃しました。
環境品質保証活動の定着	1. PFOS対応 2. REACH規制対応 3. 設計、購買担当者へ環境品質要求の教育実施 4. 環境品質保証活動の定着	RoHS規制物質、REACH規制物質、PFOS規制物質の調査を行い、全て不使用または規制値以下でした。
環境月間	環境改善提案を行う。	ボトムアップとして全員から環境改善提案を募集しました。
環境にやさしいモノづくり	省エネ、省資源化を目指す。	1. 3M(ムリムダムラ)の排除活動 2. 材料、燃料の削減をする。 3. 工場美化と周辺環境への対応

## 環境活動

### 環境監査

外部監査  
5月に定期審査と2工場の拡大審査を受審し、城山工場と制御システム工場がISO14001の認証工場となりました。

内部監査  
3月に内部環境監査を実施しました。40部門・委員会を監査し、拡大審査対象工場の是正を行い、システムの構築を図りました。

### 環境教育



環境教育実施項目

新入者教育  
管理監督者教育  
一般教育  
特定業務従事者教育  
内部環境監査員教育

エコ検定に2名合格しました

### 緊急時の訓練

秋の火災予防週間に合わせて火災訓練、LPガス漏洩訓練、薬品漏洩訓練を実施しました



初期消火の訓練を実施しました



薬剤タンクからの漏洩訓練を実施しました

## 環境法遵守

法に定められた事項は全て遵守しています。

環境設備	酸・アルカリ表面処理施設、乾燥炉設置届出 塩化メチレン洗浄機廃止など特定施設の届出を行っています。
環境測定	大気、水質、騒音、振動測定を定期に実施しています。全て京都府 条例基準を遵守しています。
報告書	エネルギー指定工場、産業廃棄物年次報告、PRTR年次報告 京都府温対条例年次報告など全て届け出を行っています。
廃棄物	一般廃棄物・産業廃棄物は全て適正処理を行っています。

## 環境リスク

### PRTRへの対応

長年使用してきました塩化メチレン、フロン141bの廃止を行いました。

### 工場排水

工場排水基準として自主基準を設置し、管理を行っていますが  
亜鉛濃度が自主基準を超えています。  
排水系統の見直しにより、平準化を図り自主基準値を遵守してまいります。

### 緊急時対応

火災や薬品の漏洩を想定し、毎年訓練を行っています。

### 化学物質管理

商品へ影響をする有害物の使用は全廃しました。また、使用材料、購入品からの  
有害物汚染がないように管理をしています。

### 環境リスク管理

土壌汚染・地下水汚染  
騒音  
大気放出  
などの問題の発生を予測し、事前に対応を行い回避をしています。

### 事故・苦情への対応

2008年においては環境の事故発生、苦情の発生はありません。



## 環境コミュニケーション

- 環境報告書は、会社ホームページにて公開しています。  
アドレス <http://www.nittoseiko.co.jp/>
- 地域連絡会  
地域との環境対応を進める目的で、自治会関係者の方々に出席いただき毎年開催しています。
- 緑化活動  
5月に開催される綾部市みどり公社の由良川花壇展に毎年参加しています。  
2008年は綾部市市議会議長賞を受賞しました。
- 奉仕活動  
地域の清掃活動や「あやべ良さ来い」おどり、夏まつりに参加しています。



由良川花壇展



あやべ水無月まつり後の清掃活動



「あやべ良さ来い」おどりに参加



新入社員による公園の清掃作業

## 環境管理コスト

対象期間: 2008年 1月 1日～2008年12月31日  
単位: 千円

環境保全コスト				主な内容
	投資額	費用額	合計	
公害防止		22,268	22,268	大気汚染防止 水質汚濁防止 土壌汚染防止 騒音防止 その他の公害防止
地球環境保全	64,838	7,703	72,541	地球温暖化防止及び省エネルギー オゾン層破壊防止 その他の地球環境保全
資源循環	5,275	22,313	27,588	資源の効率的利用 一般・産業廃棄物のリサイクル等 一般・産業廃棄物の処理・処分 その他の資源循環
上・下流				製品商品等の回収、リサイクル、適正処理 その他の上・下流コスト
管理活動	826	22,136	22,962	環境マネジメントシステムの整備、運用 環境情報の開示及び環境広告 環境負荷監視 従業員への環境教育等 事業所及事業所周辺の緑化、美化等
研究開発				環境保全に資する製品等の研究開発 製品等の製造段階における環境負荷の抑制のための研究開発 その他、物流段階や製品等の販売段階等における環境負荷の抑制のための研究開発
社会活動	200	500	700	事業所及び事業所周辺を除く自然保護、緑化、美化、景観保持等の環境改善対策 地域住民の行う環境活動に対する支援及び地域住民に対する情報提供等の各種の社会的取組
合計	71,139	74,920	146,059	



## 環境品質保証

### 環境品質保証に関する方針

#### 基本理念

日東精工株式会社は、地球環境の環境保全の有用性を優先課題の一つとして強く認識し、企業活動のあらゆる面で環境問題に配慮して行動し、社会の発展に貢献する。生産に関する部品、材料、製造工程の地球環境への影響を配慮し、環境にやさしい製品の提供を行う。

#### 環境品質保証に関する方針

日東精工株式会社は「顧客に対し最大の満足を得る」をビジョンとし、機構部品の調達、販売に関わる環境品質保証の物質を以下のよう定め使用禁止、全廃を図る。

- 使用禁止物質
  - ①カドミウム及びカドミウム化合物
  - ②PBB（ポリプロモビフェニル）類及びPBDE（ポリプロモジフェニルエーテル）類
  - ③PCB（ポリ塩化ビフェニル）類
  - ④ポリ塩化ナフタレン類
  - ⑤有機すず化合物（トリブチルスズ類・トリフェニルスズ類）
  - ⑥石棉（アスベスト）
  - ⑦アゾ化合物（分解によりアミンは発生する可能性があるものの、人体に持続的に触れることを前提として作られた製品の人体接触部分）
  - ⑧ホルムアルデヒド
  - ⑨塩化メチレン
  - ⑩HCFC（代替フロン）類
  - ⑪POPs（残留性有機汚染物質）（PFOA、PFOS等）
- 全廃物質
  - ①水銀および水銀化合物
  - ②PVC（ポリ塩化ビニル）及びPVC混合物
  - ③PBB、PBDE以外の有機臭素化合物（臭素系難燃剤）
  - ④塩素化パラフィン（塩素系難燃剤・可塑剤）
  - ⑤鉛および鉛化合物
  - ⑥六価クロム化合物

日東精工株式会社は上記環境管理物質に該当する物質が発生した場合、使用禁止、全廃の措置をとる。尚環境品質保証の全廃の期限を「別紙 環境品質保証全廃・削減計画表」に記し徹底する。この環境品質保証に関する方針は全社員に周知すると共にユーザー先からの要求に対して開示する

2009年 1月 1日

日東精工株式会社 環境品質保証経営責任者  
常務取締役 高倉 正明

### 環境品質保証システム

環境品質経営責任者をトップに環境品質保証体制を確立しています。原材料や購入品の調達においては、有害物質が含有しないように、受入検査を実施し、製造工程では、使用する薬品や補助材料、機械装置からの汚染がない仕組みを、出荷検査は、有害物質の含有がないことを保証する仕組みを確立しています。

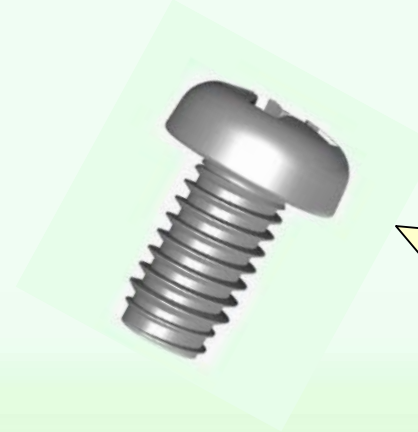
### 管理項目

- ・取引先との品質環境協定書の締結
- ・購入品の不使用証明書、エビデンスの入手
- ・内部環境品質監査の実施
- ・トレーサビリティの管理
- ・環境品質教育の実施
- ・不適合・是正の管理
- ・法規制及びユーザ基準の遵守

### 環境品質保証の対象物質

法規制及びユーザ基準に定められた含有禁止物質は使用していません。

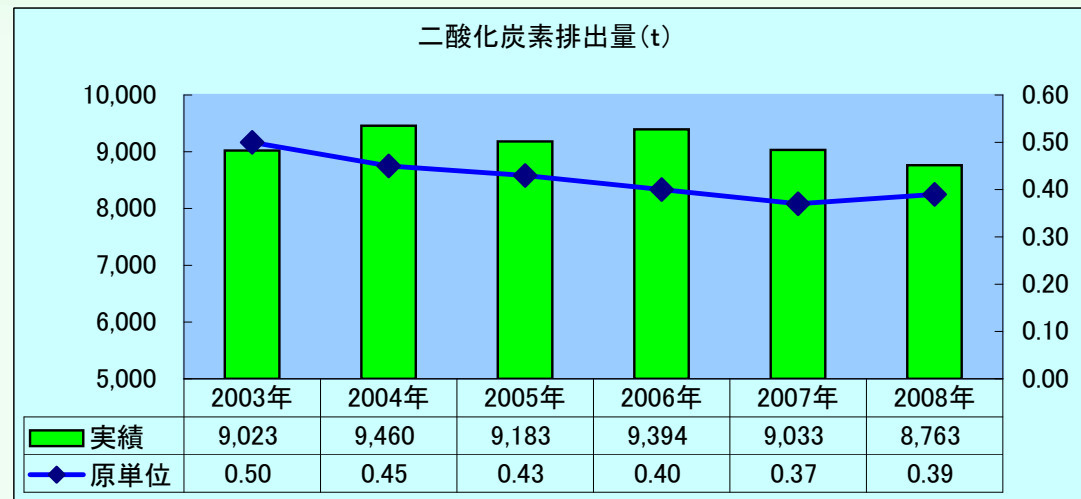
- ・ELV・RoHS指令物質
- ・REACH規制対象物質（SVHC15物質）
- ・POPs条約物質
- ・ユーザグリーン調達ガイドラインに定める物質



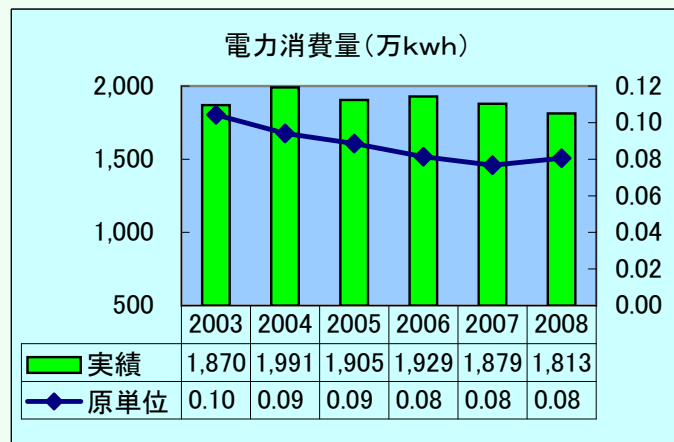
### 環境品質保証製品の提供

有害物質を**入れない**、**使わない**、**出さない**の「3ない活動」により、環境品質保証製品の提供を、御約束します。

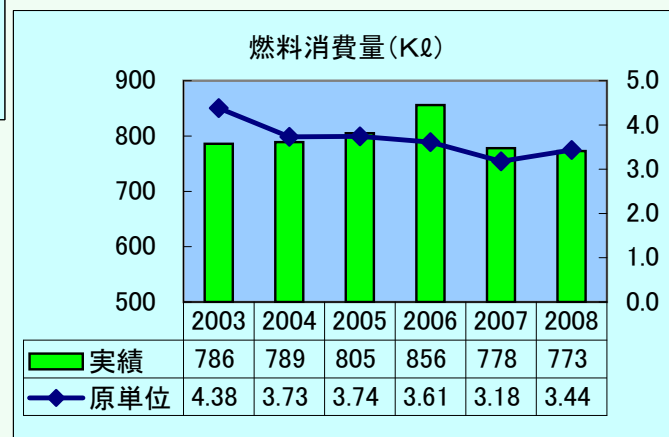
## 省エネルギー活動



二酸化炭素排出量は前年度比3%減、原単位は6%増となりました。中期計画においては2005年比9%減で、目標の達成となりました。

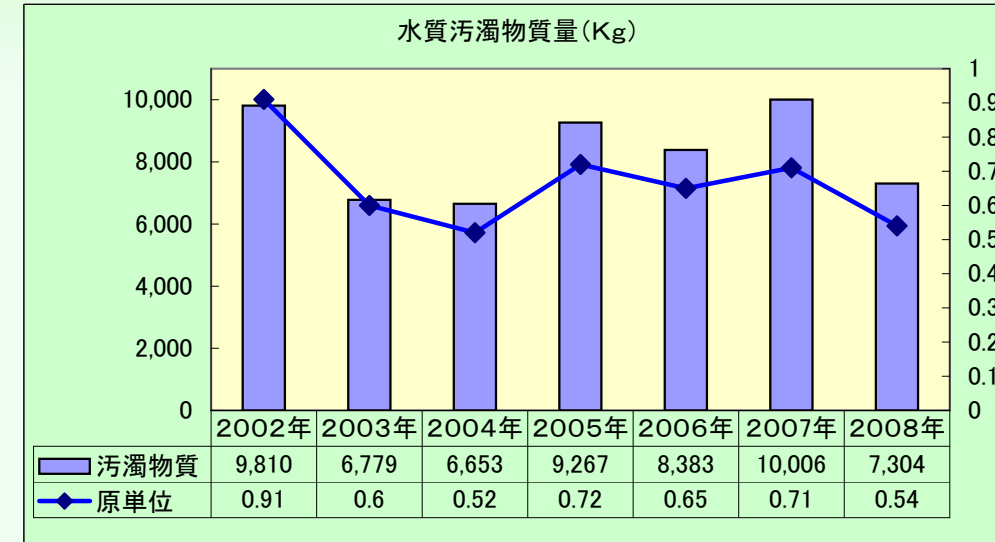


省エネ対策として、電力量の削減に取り組みました。エアの消費量を削減するために、圧力の見直し、吐き出し量の削減、配管からの漏洩防止などを実施した結果、エア量の大幅削減となり電力量が低下しました。



燃料につきましては、洗浄対策を進めた結果、小型ボイラーの増設により、燃料消費の削減はできませんでした。

## 水質汚濁物質



排水水質の安定化を図り、水質汚濁物質量は改善されました。2011年から亜鉛の排出濃度が2mg/lになります。現在の排水処理方法を更に精密な処理として改善を進め、排水濃度基準の遵守を図ってまいります。

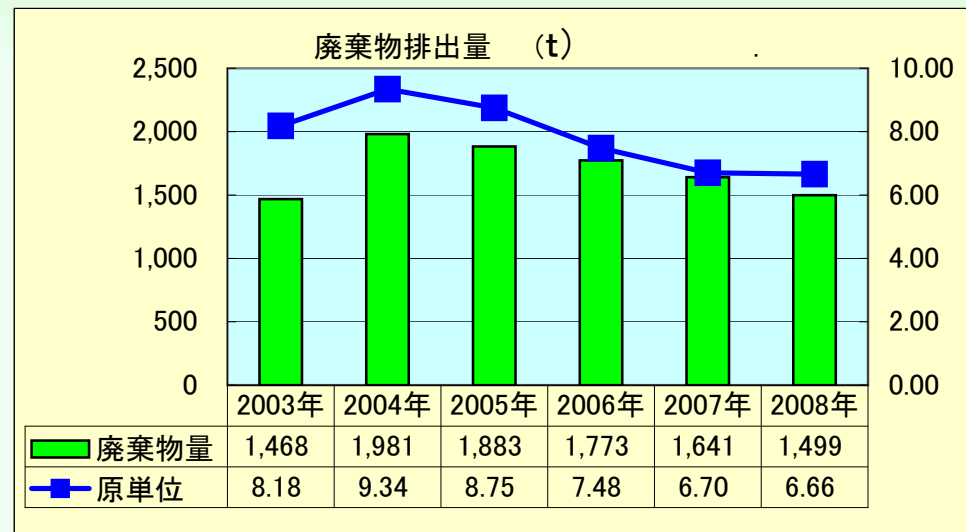
測定項目	規制値		測定値(mg/l)	
	府の基準	社内基準	平均値	最大値
水素イオン濃度(PH)	5.8-8.6	6.0-8.0	6.6~8.2	
生物化学的酸素要求量(BOD)	160	20	8.0	37
浮遊物質(SS)	200	20	5.0	10
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	5.0	3.0	1.90	3.4
六価クロム	0.5	0.2	0.02	0.25
全クロム	2.0	0.5	0.10	1.50
亜鉛	5.0	2.0	1.70	4.90
ニッケル	2.0	1.0	0.42	1.67
銅	3.0	1.0	0.01	0.10
溶解性鉄	10.0	2.0	0.20	1.49

一時的に排水濃度が自主基準値を超えました。今後は排水の平準化と精密処理で対処してまいります。





## 廃棄物量



製造工程で発生する廃棄物、有価物の削減に取り組んでまいりました。その結果毎年削減を図ることができました。

## 化学物質量

物質 番号	物質 番号	原材料、資材等名称	2008年年間取扱量					2007年取扱量	
			年間購入量 Kg/年	製造品 搬出量 Kg/年	最大潜在 排出量 Kg/年	水系排出量 Kg/年	廃棄物 移動量 Kg/年	大気放出 量 Kg/年	年間購入量 Kg/年
1	1	亜鉛化合物(亜鉛として)	39,979	32,085	0	1,390	6,504	0	32,934
2	68	三価クロム化合物(クロムとして)	1,832	529	0	125	1,178	0	2,501
3	100	コバルト(コバルトとして)	740	214	0	51	476	0	1,400
4	132	フロン141b	7,130		0	0	3,565	3,565	9,450
5	145	ジクロロメタン(塩化メチレン)	15,250		0	0	7,625	7,625	31,800
6	232	ニッケル化合物(ニッケルとして)	6,411	5,836	0	106	469	0	7,321
		計	71,342	38,664	0	1,672	19,817	11,190	85,406

PRTR法(化学物質排出把握管理促進法)への対応

- ・PRTR法に基づき毎年届出を行っております。
- ・届出対象物質は昨年と同様に4物質になっています。
- ・2008年をもって、塩化メチレンとフロン141bを全廃することができました。

## 国内拠点

本社・工場	〒623-0054 京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20 TEL(0773)42-3111
ファスナー 事業部/八 田工場	〒623-0116 京都府綾部市下八田町菩提10 TEL(0773)42-3125
産機事業部 /城山工場	〒623-0003 京都府綾部市城山町2 TEL(0773)43-1550
制御システ ム事業部	〒623-0041 京都府綾部市延町野上畑30 TEL(0773)42-3151
東京支店	〒223-0052 横浜市港北区綱島東6-2-21 TEL(045)545-3313
北関東営業 所	〒370-0523 群馬県邑楽郡大泉町吉田1221-3 TEL(0276)63-8158
大阪支店	〒578-0965 東大阪市本庄西1-6-4 TEL(06)6745-8357
名古屋支店	〒465-0025 名古屋市名東区上社5-405 TEL(052)709-5061
九州出張所	〒812-0897 福岡市博多区半道橋1-6-46 (092)411-1724

## 日東精工株式会社

ホームページ  
環境報告書に関する  
お問い合わせ先

<http://www.nittoseiko.co.jp/>  
生産技術部環境整備課  
e-mail:kankyo@nittoseiko.com